

初級レベルの英文法の“バイブル”

Essential Grammar in Use イギリス英語版 Basic Grammar in Use アメリカ英語版 利用の手引き

東京都立東村山西高等学校
主任教諭・高橋正博

0) はじめに:

私は「オール・イングリッシュ」「アクティブ・ラーニング」「訳先渡し」「反転授業」などという言葉が頻繁に使用される前から、英語の授業は、文法分析型逐語訳ではなく、英語のままストレートに教えたいと思っており、様々な学校で教えてきました。そして、片っ端から洋書教材を漁り、高価ながらも担当学年の生徒全員に購入させ、文法や英会話の授業で日本人単独で、もしくはALTとのチーム・ティーチングで使用してきました。洋書教材は高額なために学校の必修の授業で使用する教員は少数ですが、月々の携帯・スマホ代に比べたら安いものです。洋書教材を英英辞典や電子辞書と一緒に購入し、教師が足並みを揃えて指導をすれば、英語教育は格段に改善されるはずです。

こんな中、私が出会った一つの洋書教材が本書でした。この群を抜いて教えるのが楽しかった本書との出会いは衝撃的で、これは自学自習にも適しており、このご時世になっても大人数で教えざるを得ない現状を踏まえ、ペアワークやグループワークを頻繁に取り入れて、教員の負担を1対40の構図から1対20、1対10、1対5、最終的には“Teacherless”で授業を進めることができると考え、最初は周囲の反対に逢いましたが、何とか様々な不安をよそに本書を導入することができました。そして、授業では教師も学習者も毎日が公開授業であるかのような緊張感に包まれる中、生徒たちの反応は私の予想を上回る大盛況ぶりでした！

1) 「イギリス英語版」と「アメリカ英語版」:

Grammar in Useの初級編には「イギリス英語版」(Essential Grammar in Use)と「アメリカ英語版」(Basic Grammar in Use)があります。出版社がCambridge University Pressということもあってか、前者が主流のようになっていますが——私が使ってきたのも前者で、今なら“アメリカ英語”の北米版もお勧めします——前者も後者も、著者は同じで、内容も違いはありません(“shall”の使い方などに違いあり!)。皆さんは、よく比較して自分の好みでお選び下さい。

2) Grammar in Useの数々の魅力:

① 英文法を“シチュエーション”とフルカラーの“イラスト”で一発理解できる!

本書の最大の魅力は、英文法をどういふシチュエーションでどの文法を使うのかを視覚的にイラストで教えてくれることです(これだけイラストを使用している教材は国内外にありません)。現在完了形も、単に理詰めで説明するのではなく、どういふ場面でこの時制を用いるのかを図とイラストで示してくれます(“before”汚かった靴→“now”今はきれい)。日本語で回りくどい説明をしたり、訳している間にどんどん先に進めることができます。

② 専門用語を使わず、平易な文法用語を使用!

どの文法事項もとても平易な英語で明確に説明してくれるので、学習者は自然とS+V...の英語頭にさせられ、英語学習をサポートしてくれます。使役動詞を“causative verbs”と置き換えても学習者のためには何にもなりません! 英語で文法説明をすると回りくどい言い方になりがちな教師も、英語をダイレクトに教える際にとっても役立ちます。現在進行形は、Something is happening now.; What's happening now?、職業を尋ねる What do you do?は、What's your job?と明確です。不規則動詞も、Some verbs are irregular (=not regular). The past simple is not __ed. Here are some important irregular verbs. と納得できます。そして、短縮形 = Write the short form (she's/we aren't etc.) とシンプルです。

③ 実際に“使える”文法項目仕立て!

例えば、日本の普通の文法書に見られる「助動詞」という実際にはあまり意味をなさない項目は、本書ではFutureの項目の一つにWhat are you doing?; I'm going to...; willとあり、Modalsの項目にmight; can and could; must; should; I have to...; Would you like...?; I'd like...; I'd rather...と学習者の視点で構成されています。特に、命令文(Imperatives)はDo this! Don't do that! Let's do this! 今でもすぐにこのまま英語を使えそうな気分になります! 日本語だと理解しづらい“must”と“should”も、本書ではI must do it=I need to do it; You should do something=it is a good idea to do it; it is the right thing to do とこの上なく明確です。

④ 対話形式の練習が多く、ペアワークやグループワークが楽しくなる!

さらに、本書では対話形式の例文が多いので、ペアワークやグループワークが楽しく進めることができます。かつ、指示が分かりやすい英語なので、一人が先生役、相手が生徒役という役割分担が即可能。Would you like ...? とDo you

like ...?の違いも、日本語で違いを理解してもらうのは面倒ですが、設定場面と二人の対話文があればごく自然に理解できます。

⑤右ページのExercisesはどの項目も段階的に難易度が上がる！

Exercisesは、多くの場合、最初のいくつかは初めに単語がサンプルとして朱書きしてあります。そして、番号が大きくなるにつれ、学習者を段階的に突き放して、最後は一人でも解けるように問題が配列されています。あるいは、必要な単語が与えられており、後は学習者がそれぞれ自分の状況に合わせて解く問題が多いのも特色です。Write sentences about yourself; Write true sentences.

⑥自然な形で英会話学習！

何でも理づめで学習するのではなく、本書では設定場面の明確な対話文を通じて、文法をごく自然な感覚で学習できます。左ページの解説が大変よくまとめられているので、必ずしも学習者は教師の説明を待つのではなく、時には生徒同士がジャンケンをして“先生”と“生徒”になって簡単な英語で自由に与えられた語彙を活用して順番に英語で文法説明をし合うことも難しいことはありません。

⑦巻末に解答が付いているので自学自習にも最適！

これは洋書教材全般の特徴ですが、本書も“自学自習”が容易にできるように巻末にはAnswersが用意されています。したがって、授業では教師は絶対に説明が必要な項目を重点的に教えることができ、教師の解説が不要なExercisesや、ペアワーク向きではない簡単なExercisesは、授業時間内に自習にすることもホームワークに回すことも容易にできます。解答付きなので、教師も余計な手間を掛けなくて済みます。

3) Grammar in Useの魅力を最大限に生かした授業:

本書は、授業で英文法を英語でダイレクトに教えるのに最適な、全て英語で書かれた解答付きの文法書です。英文法は、必ずしも日本語で学習しなくても英語だけで学習できます。しかし、英文法のバイブルと称される本書を使用しても、これをただの問題集として使用するのではあまりにももったいないと思います。Grammar in Useの魅力を最大限に生かした授業形態をいくつかご紹介しましょう。

① 様々なペアワーク: 先生対生徒、1対1、列対列(縦+横)、廊下側対窓側

本書のExercisesは対話形式が多いので、毎回ジャンケンをして、Student A; Student Bを決めて行う1対1のペアワークにとっても適しています。例えば、

Question tags(付加疑問文)、文末に使うtoo; eitherの復習と仕上げは、自分たちの英語レベルに合わせて、オリジナリティー溢れる学習者の即興例文をペアワークで行いたいものです(教師の綿密なチェックが入らない学習も、実は大切な英語学習過程です!)。イラストの人物に吹き出し(ヒント)があると、さらに生き生きとした臨場感が生まれます。本書はget in a car; get out of a car; get on a bus; get off a busなどの単純なフレーズでさえイラスト付きです!誰でも一発で理解することができます。

ペアワークは、横の生徒とペアを組むケースが多いかもしれませんが、縦や斜めに組ませたり、縦1列目と縦2列目(横1列目と2列目)の生徒を丸ごと一斉に作業させたり、廊下側の20人と窓側の20人を全員立たせて、大合唱させるのも楽しいでしょう。いずれにしても、大切なことは教師が学習者を巻き込んで何度も繰り返しサンプルを示すことです。その際、個人的な作業は後のペアワークで繰り返しできるので、ここではクラスを半分ずつに分けたグループワークや列毎に全員の前で同じサンプルを復習させて、ペアワークでの定着をサポートするのがいいでしょう。

②3人のグループワーク(例: A. Harry, B. Ron, C. Hermione)にチャレンジ!

間接疑問文を学習するなら、3人のグループを構成させてHarryとRonの他に第三者のHermioneを置きましょう。まずHarry役の生徒に“I know...”; “I don’t know...”; “Do you know...?”と言わせ、次にRon役に普通の疑問文を即興で言わせ、さらに第三者のHermione役に疑問文を最初の文の中に組み込んだ間接疑問文(if S+V...)で言わせるグループワークは、リスニングとスピーキングを活用したスリリングな作業になります。順番に交代させてやれば、サボる生徒はいなくなります!普通の疑問文を今度はWh-疑問文に変えて“She says...”; “She said...”; “She asks him...”; “She told him...”の後に来る間接疑問文を即興で言わせるとさらに頭を使う作業になります。

③反転授業でさらに総復習:今度は生徒が先生役!

授業では教師が頑張りすぎるのは禁物。一通り練習を終えたところで、今度は総復習で反転授業に切り替えてみましょう。本書の構成上、反転授業も簡単に行うことができます。復習では、生徒にリードさせて教師が応答します。生徒全員⇔教師、縦1列目⇔縦2列目、横1列目⇔横2列目、男子生徒⇔女子生徒、いろいろとパターンを変えて飽きさせずに繰り返し行いましょう。

④学習し終えた項目を、今度は短時間で口頭での要約&説明にチャレンジ!

左ページは簡単な英語でよくまとまっているので、“Student A”が“Student B”に対して自分なりの英語で文法の要約&説明をすることもそう難しいことではありま

せん。普段から学習者を巻き込んで口頭練習を取り入れていれば、1年が終了する頃には見違えるようなコミュニケーション能力が付いているはずです！

⑤作文指導：口頭練習の後は、本日の文法を5分でノートにまとめさせる！

④の口頭練習を終えた後にさらに時間の余裕がある時は、是非“本日の文法”を英語でノートにまとめさせて下さい。その際の指示は、「5分以内で」「3行で」「50ワード以上で」などと状況に応じて明確に行うことをお勧めします。

⑥Exercisesの答えは書き込ませずに“口答練習”に徹して学習させる！

右ページのExercisesを解答する際は、絶対に最初から答えを書き込ませないことが大切です。生徒の多くは、“不安”に駆られて答えを先に書きたがりますが、ここはあくまでもその場その場でのコミュニケーションを取ることをイメージさせて、口頭学習に徹することが重要です。そして、最後に再度書く時間をゆっくり取ってあげて、復習させるととても効果的です。常に教師の説明と口頭でのやり取りに集中させ、人と“コミュニケーション”を取りながら文法を学習させるのです。

4) 最後に年間利用計画について：

イギリス英語版は全部で115章(アメリカ英語版の第3版は116章)あるので、基本的に、高校で使用する場合、日本人単独なら「英語表現」、JETやALTとのチーム・ティーチングなら「コミュニケーション英語」や「英会話」の授業等で週1時間か2時間ずつ、高1と高2の2カ年計画で使用するのが良いと考えています。受験勉強にシフトする高3で扱う際は、選択科目等で“English Grammar in Use”(中級)、“Advanced Grammar in Use”(上級)にも繋げたいものです。中高一貫校なら、初級編を中3～高1の2年間で、中級編を高2～高3で扱うのをお勧めします。その際、是非気を付けて使用して欲しいのは、中途半端な形で日本語で解説を入れず、淡々と本書で使用される平易な英語で教えることです。



◆高橋正博のプロフィール：

現在、東京都立東村山西高等学校の英語科・主任教諭。島嶼地区、新設校、国際学科、外国語コース、中高一貫校を含む都立学校7校で教えた経験を持つ。英語洋書読書を推進し、各学校で3カ年～6カ年計画で一般生と海外帰国生を対象にリーディング・プログラムを導入、絵本から児童書・ペーパーバックまで独自に開発する多読用リーディング・スタディガイド(Quiz形式；2択・4択のQ&A集)を制作。ガイドは、現在365冊目を製作中。希望者には、スタディガイドのリストとデータを差し上げています(Student版&Teacher版)。